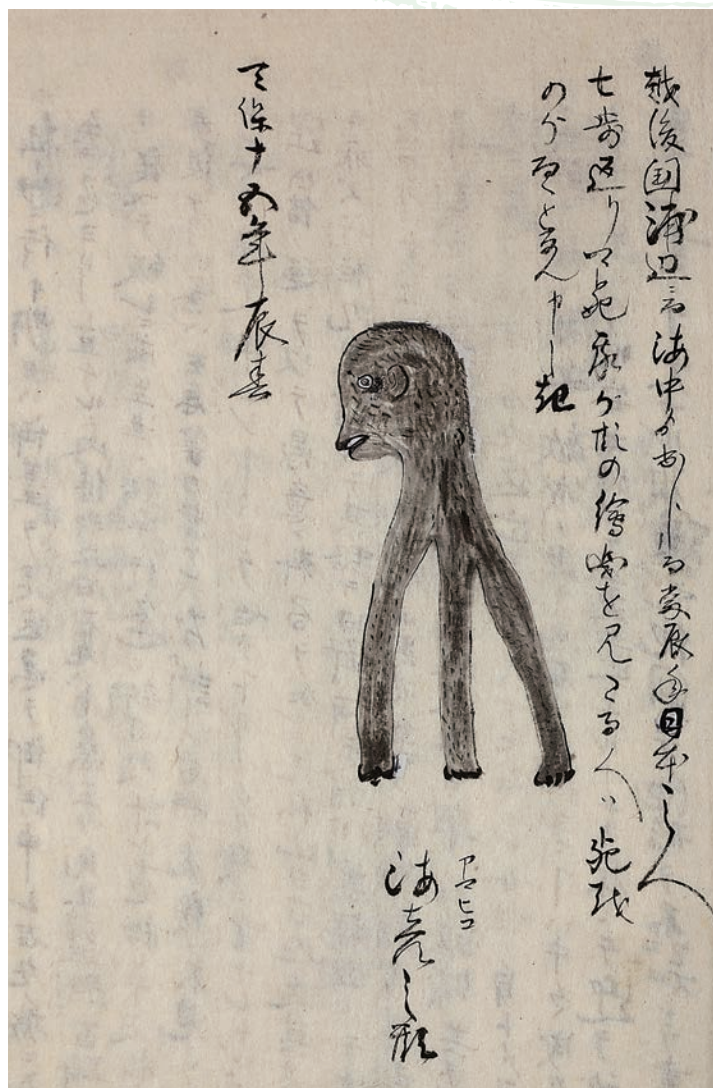


文書館だより

Fukui Prefectural Archives



▲「越前国主記」(部分) 1861年(文久元)
福井県立図書館蔵(坪川家旧蔵) A0141-00146

第28号 目次

特集1 新型コロナウイルスへの対応について	2
特集2 明治期の新聞画像のインターネット公開	4
歴史的公文書紹介	6
寄贈資料紹介	7
お知らせ	8

第28号

2020.12

福井県文書館

新型コロナウイルスへの対応について

新型コロナウイルス感染症の拡大が引き続き懸念されているところですが、今年（2020年）に入って文書館が行ってきた対策や非来館型サービスについて、お知らせします。

1. 感染拡大～臨時休館まで

2020年1月、国内での感染が一部の都道府県に限られていた時点では、まだ新型コロナウイルスへの十分な知識はなく、窓口職員へのマスク義務付け、消毒用アルコールの増設、啓発チラシの掲示から進めていきました。マスクについてはご存じのとおり、2月以降には新規購入が困難な状況となりましたが、文書館には、古文書整理や被災資料の修復の際に使用するマスクの在庫があり、当面の間のマスク不足は回避できました。普段から災害に備えることの重要性を改めて認識しました。

大きく局面が変わったのは、国から小・中学校・高等学校への休校要請が出された2月27日です。これに伴い、資料保存研修会、古典文学ゼミナール、ゆるっとークなどのイベントの中止や延期を余儀なくされ、また高校生以下の利用者については来館の自粛を要請しました。さらに、3月18日に県内で初めての感染者を確認、その後も次々と感染者が出たことを受け、福井県新型コロナウイルス感染症対策本部の指示により、3月最後の土日に臨時休館。翌週にいったん開館したものの、4月4日以降、再び臨時休館（4月13日～17日の文書整理期間を含む）となりました。



▲災害用に確保していたマスク

2. 臨時休館中の対応

4月4日～5月9日の臨時休館中は、いつ再開しても安心して来館してもらえるよう、いわゆる「3密対策」に取り掛かっていました。職員を経由して来館者に感染が拡大しないよう、窓口にアクリル板を設置。早い段階から業者と仕様を検討し、県施設の中でもいち早く設置を完了しました。

次に来館者同士の感染拡大を防ぐための対策として、閲覧席の椅子を間引いた上で、机と机の間には間仕切りを配置しました。展示コーナーは文書館の業務を紹介する「銀の扉を開けたならー文書館の“うら”側ー」に衣替え。展示ケース周辺に人が重ならないよう動線を工夫したり、滞在時間が少しでも短くなるようにキャプションの文字数を制限したりするなど、一見気が付きにくいところを含めて、職員同士で議論しながら対策を行いました。



▲展示コーナーの様子

3. 非来館型サービスの充実へ

これまでは、展示などを通していかに文書館に足を運んでもらえるかに重点を置いてきました。その甲斐あって昨年度（2019年度）の入館者数は、前年比6.6%増の18,550人と文書館開館以来最多となりましたが、新型コロナウイルス流行下では、来館者が増えすぎて感染が拡大してしまっは大変です。そこで文書館では、臨時休館中から非来館型サービスの充実を進めました。

(1) 資料デジタル化の推進

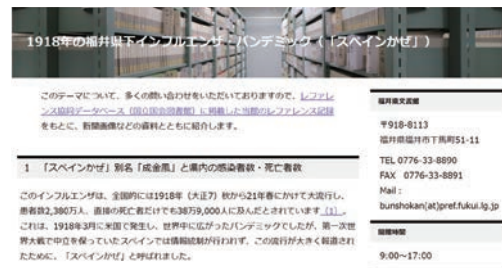
文書館では、これまでもデジタル化を積極的に進めており、2018年度からは、「幕末福井関連資料データ」など、レファレンスや当館資料の調査に特に有用な資料データのテキスト化に取り組んでいます。今年度は、「福井藩士の給帳」、「明治期の新聞記事見出し」、「戦後の県報」などを選り、職員の在宅勤務も活用しながら進めています。これらは、順次ホームページで利用できるようにしていきます。



▲福井藩主（初代～7代）の給帳（職員録）をExcelデータとPDFデータで公開しています。

(2) 「コラム#ふくいの記憶に出会う」

展示を通じた資料の紹介がなかなかできない状況の中、それを補完するものとして、ホームページ上でコラムを始めました。それが「コラム#ふくいの記憶に出会う」です。月1回程度を目途に新しいテーマを追加しており、これまでに、「1918年の福井県下インフルエンザ・パンデミック（「スペインかぜ）」以下7話（2020年10月末現在。番外編を含む。）を配信しています。



▲「コラム#ふくいの記憶に出会う」の一例。職員の研究成果に気軽に触れることができます。

(3) 動画の活用

幅広く文書館のことを知ってもらえるよう、YouTubeに「福井県文書館チャンネル」を開設。「文書館探検」など様々な動画の配信を始めました。また、9月13日に開催した講演会ではライブ配信にも挑戦しました。

動画配信については、機材や回線の制約がある中で試行錯誤しているのが現状で、様々な課題もありますが、今後も挑戦していきたいと考えています。



▲講演会「春嶽政権と家臣団」の様子。YouTubeで同時中継され、40名以上が視聴しました。

4. 今後に向けて

新型コロナウイルスの感染拡大は、文書館の業務にも大きな影響がありました。一方で過去の疫病やアマビコ（アマビエ）関連などで、地元紙から大手マスコミまで多くのメディアに取り上げてもらった機会が増えました。このことは、これまで福井県文書館がデジタル化という形で、常に外に向けて発信してきたことが実を結んだものとも考えています。今後も、安心して来館してもらえる環境整備と、非来館型サービスの充実に取り組んでいきます。

明治期の新聞画像のインターネット公開

福井県文書館では、2020年4月に、明治期の福井新聞など約1,800日分について、画像データのインターネット公開を開始しました。地方新聞において、これほどまとまった量の一括公開は全国的にみても初めてのことと言えます。

1. 公開した新聞について

今回公開した新聞は、1882年（明治15）8月1日～1891年（明治24）6月30日発行の「福井新聞（第1次）（のち福井新報と改題）」と「福井新聞（第2次）」（国立国会図書館蔵）です。現在の福井新聞とは資本関係はありません。県史編さんのために入手した画像を公開しました。号数にして2,374号分、日数にして約1,800日分、画像枚数は約7,200枚となります。

このような明治期の新聞のインターネット公開は、国内ではあまり進んでいません。地方紙ではオーペピア高知図書館で数か月分が公開されているだけです。今回、著作権者不明の記事については、文化庁裁定制度を活用して公開が可能となりました。詳細は、カレントアウェアネス・ポータル（国立国会図書館サイト）の記事「E2277-文化庁長官裁定制度による明治期地方紙のインターネット公開」をご覧ください。



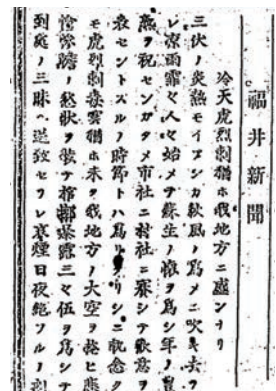
▲福井新聞(第1次)1886年9月19日付紙面

2. 記事の紹介

過去の新聞を読むことで、当時の世相を知ることができます。今回公開した新聞の中から、特に興味深い記事をいくつか紹介します。

(1) 1886年（明治19）9月19日 「論説」

コレラの大流行を受けた論説です。「冷天虎烈刺猶ホ我地方ニ盛ンナリ」と題し、秋を迎えても県内での流行が収まらず、患者総数5,300人余、死者数は3,200人余にのぼっていること、飲料水や食事の摂取法などの予防策の必要性が論じられています。



(2) 1886年（明治19）11月23日

「ノルマントン号事件義捐金」

10月24日に発生したノルマントン号事件を受けて、全国の新聞各社は被害者遺族のために義捐金の募集を行いました。福井新聞も1面に義捐金募集の広告を掲載しています。



(3) 1889年(明治22)2月13日「憲法発布」

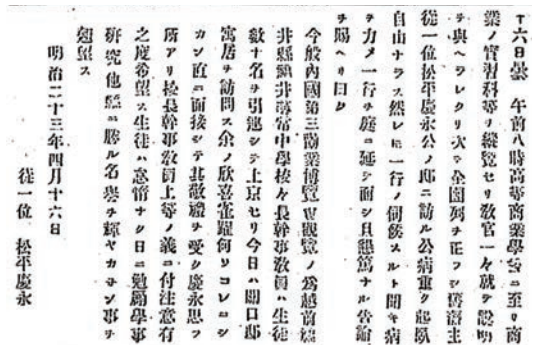
2月11日に大日本帝国憲法が発布されたことを受けて、80歳以上の高齢者には金50銭、90歳以上には金1円が下賜されました。

また市民がかつて福井藩家老の別邸であった三秀園や、料亭月見亭・晴嵐亭・五嶽楼で祝宴を開いて憲法発布を喜び合った様子も報じられています。



(4) 1890年(明治23)6月4日「修学旅行日記」

福井県尋常中学校(現藤島高等学校の前身)の修学旅行日記(連載記事)です。4月15日に工科大学(現東京大学工学部)を訪問したことや、翌16日に旧藩主松平春嶽邸を訪問し、闘病中の春嶽から、「生徒ハ怠惰ナク日ニ勉勵学事研究、他県ニ勝ル名誉ヲ輝ヤカサン事ヲ熱望ス」と告諭を賜ったことなどが詳述されています。



3. 活用について

今回公開した新聞画像は、「デジタルアーカイブ福井」で閲覧・印刷・ダウンロードが可能です。詳細検索の検索条件で「新聞」を選択し、添付ファイル種別で「画像あり」を選ぶと、画像を見ることができます(閲覧方法についてはYouTubeの福井県文書館チャンネルで詳しく紹介しています)。

広くインターネット上に公開しているため、県内はもとより県外の方の学習や研究等のニーズにも対応することができます。海外からも反響があり、2020年7月にはアメリカのミシガン大学図書館のホームページ「Japanese language newspaper online」にもリンクが掲載されました。

また、新聞記事は中高生でも読解可能であることから、社会科の授業教材や、地域探究学習としての活用も期待されます。

■表紙写真■ 「越前国主記」(アマビコ画像部分) 1861年(文久元)

福井県立図書館蔵(坪川家旧蔵) A0141-00146



アマビコとは、江戸後期から明治中期にかけての資料で確認されている妖怪です(今年「疫病退散の妖怪」として大流行したアマビエはアマビコ的一种)。「越前国主記」には、足羽郡種池村(福井市)の豪農坪川氏が写したアマビコが綴じ込まれています。

越後国浦辺ニ而海中分出申候而、当辰年日本之人
七歩通り可死、我が形の絵図を見たる人ハ死を
のがるゝとなん申しき

アマビコ
海彦之形

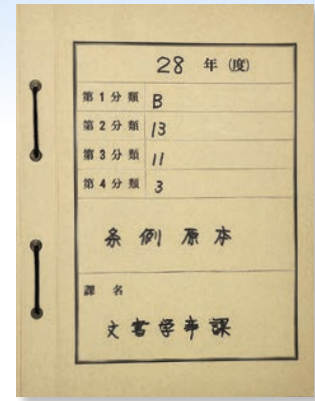
天保十五年辰春

◆◆◆ 歴史的公文書紹介 ◆◆◆

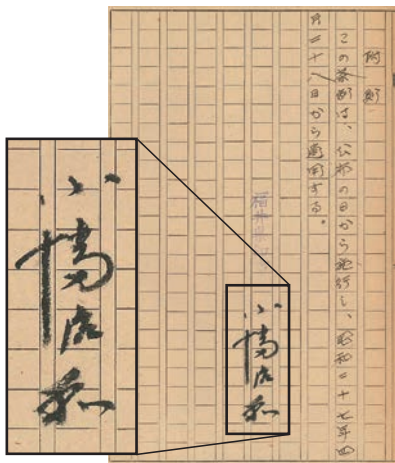
条例原本を見てみよう

条例とは、普通地方公共団体の区域内において適用される自治立法で、国の法令に違反しない範囲で定められるものであり、議会の議決により成立します。その後、条例の内容を広く周知するため、県報などに掲載します。これを「公布」といいます。

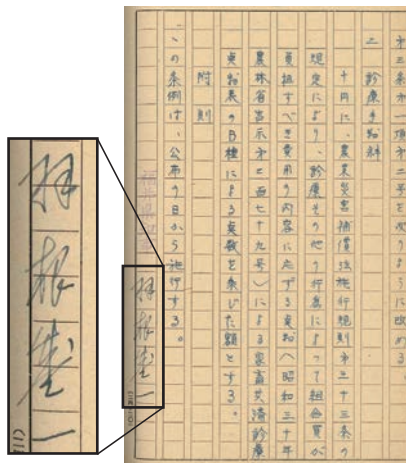
さて、この公布のための「手続き」については、昭和25年に地方自治法が改正され、「条例でこれを定めなければならない。(第16条第4項)」とされたことから、福井県では「福井県公告式条例」を定め、「条例を公布しようとするときは、公布の旨の前文および年月日を記入し、その末尾に知事が署名しなければならない。」と規定しています(判例で記名押印も認められている。)。この知事の署名されたものを「条例原本」といいます。文書館では昭和25年分から保管しており、以下の画像は、戦後の歴代知事が署名または押印した条例原本です。なお、西川一誠前知事、杉本達治現知事のもの、保存年限(20年)が満了していないため、まだ移管されていません。



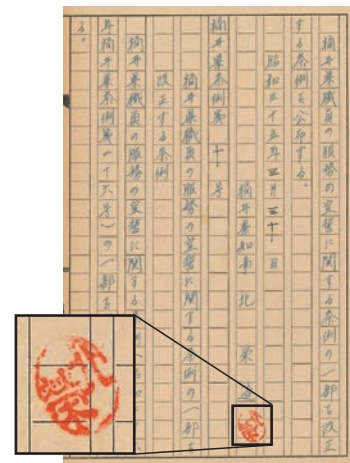
▲条例原本(総務部文書学事課)
(昭和28年度)13054



▲小幡 治和 知事
(1947.4 ~ 1955.2)

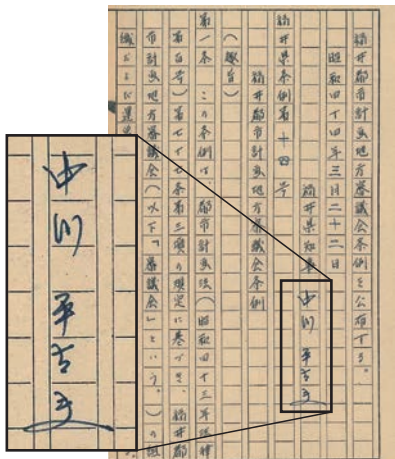


▲羽根 盛一 知事
(1955.4 ~ 1959.4)

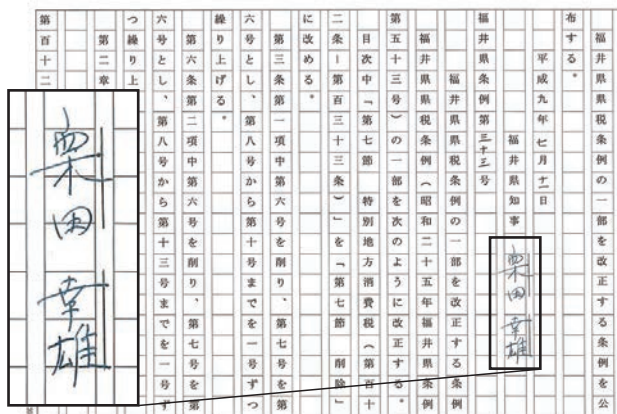


▲北 栄造 知事
(1959.4 ~ 1967.4)

※この頃は記名押印だったようです。



▲中川 平太夫 知事
(1967.4 ~ 1987.4)



▲栗田 幸雄 知事
(1987.4 ~ 2003.4)

※条例文が手書きからワープロになりました。

寄贈資料紹介

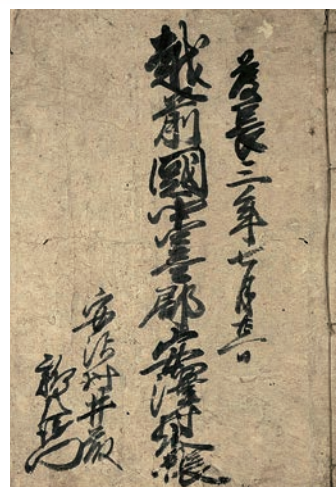
複製本ができたものから公開しています。

● 矢尾真雄家文書 (C0065)

矢尾家は坂井郡安沢村（坂井市）における大高持で、大庄屋として近隣の村々を統轄していました。近代に入ってから安沢村戸長を務めました。

当家の文書は安沢村の庄屋文書、矢尾家の私家文書、地価修正問題を中心とする近代文書からなります。

庄屋文書には廻米の勘定帳や年貢関係の小前帳、川除普請の仕様帳などがあります。



▲「越前国中墨郡安沢村水帳
（太閤検地帳）」C0065-01028



▲「(強い国会開設願望を切願スル暇ナシ、
毛受洪他書状等写)」 C0065-00165

私家文書には日記や苗字免許状などがあります。

近代文書では1881年（明治14）、杉田定一が設立した天真社において矢尾八兵衛（1825～93）が会計掛となったため、社費の出納帳や精算簿などがあります。また、同年9月から翌年4月にかけての地価修正事件に関する委任状などがあります。

新たに公開した古文書紹介

前号紹介後に新たに公開した資料群は以下の通りです。（寄贈・寄託資料は除く）

- A0150 越葵文庫 福井市
- A0205 越国文庫 福井市
- C0128 杉本新助家文書 坂井市
- N0007 大野六兵衛家文書 若狭町

資料所在確認調査を行っています

文書館では現在、福井県史を編さんする際に調査を行った資料所蔵者の方を対象に、資料所在確認調査を行っています。

実施4年目となる今年度は、あわら市・坂井市・大野市・勝山市の4市で実施しています。来年度は福井市・永平寺町で実施する予定です。

例年、対象となる所蔵者の方から多くのご回答があり、そのうち約70～80%の方から「資料は現在も大切に保管している」という回答を得ています。しかし一方で、「資料を処分した」「資料について分からない」という回答も一定数見受けられ、資料の散逸や滅失への対応が急務となっています。

また、この調査を機会として、各市町や当館などで緊急性の高い資料の調査や受け入れを進めています。

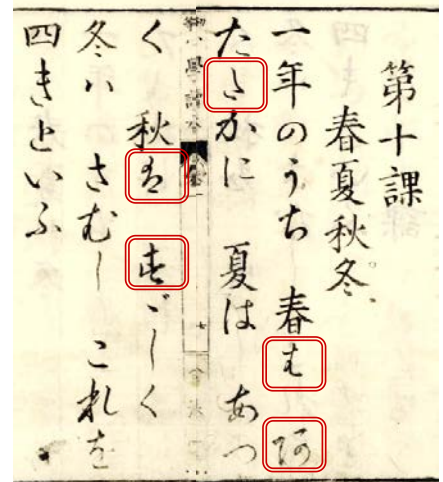
対象となる資料所蔵者の方には、郵送でアンケートを送付しますので、アンケートへの回答をお願いします。ご不明な点がございましたら、文書館までお問い合わせください。

文書館講座のご案内

■くずし字講座の問題をホームページで公開しています！

文書館では、非来館型サービスの一つとして、「くずし字講座(入門編)」の問題と解答をホームページで公開しています。問題は「変体仮名」「人名・地名」「数字・度量衡」「頻出表現」をそれぞれ4問ずつ、合計16問配信しています。はじめてくずし字にふれる方でも取り組みやすい内容となっております。PDFファイルでダウンロードできますので、ぜひご活用ください。

「変体仮名」の第1問です。赤囲み枠がいわゆる変体仮名です。現代のひらがなとは字母となっている漢字が異なっています。解答はWEBで！



▲「変体仮名」第1問「小学読本 初等科 巻一」
山内秋郎家文書 X0142-00965より

叢書発刊予定のお知らせ

今年度の『福井藩士履歴』9 福井県文書館資料叢書17は、令和3年3月末ごろ発刊予定です。昨年度に続く「新番格以下」(藩士の中でも卒身分)を対象として準備を進めています。既刊の資料叢書と同様に、希望者には文書館閲覧室、あるいは送料実費負担にて配布します。

ご利用案内

- 開館時間
午前9時から午後5時まで
- 休館日
月曜日(国民の祝日は除く)
休日の翌日(土、日、休日は除く)
文書等点検期間(年間10日以内)
年末年始(12月29日～1月3日)
清掃整理日(4月・7月・12月以外の第4木曜日、祝日の場合は翌日)
- フレンドリーバス(無料)をご利用ください。



※フレンドリーバスのバス停は図書館の敷地内

編集後記

文書館だより第28号をお届けします。今号では新型コロナウイルスへの対応策と明治期の新聞画像のインターネット公開について特集しました。今後とも文書館に親しみをもって利用していただくために、さまざまな取組を行っていきます。



文書館だより Fukui Prefectural Archives 第28号

2020年(令和2)12月11日発行
編集・発行/福井県文書館
〒918-8113 福井市下馬町51-11 電話 0776-33-8890 FAX 0776-33-8891
ホームページアドレス <https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/bunsho/index.html>
電子メールアドレス bunshokan@pref.fukui.lg.jp



健康長寿の福井